

て50万の民兵を持ち、その絶えざる訓練によって防衛力保持に力を尽していることによつてもうかがうことができるのであつて、軍需事業についても見るべきものがあることはわが国にも知られているとおりである。

また水力電気の開発にあつても、たえず国防を念頭に置いていることはわが国では考えられないほどである。私か3年前、スイスと、これまた平和国家の代表国とみなされているスウェーデンの地理学者と共に、佐久間ダムとその発電所を見学した際、彼らからなぜにこのような重要な施設を建設するにあつて国防上の見地から、発電所を地下に持つていかないのかという質問を受けた。現にこのたび両国に行つてみると、発電所は煙囪の中にかくされるか、付近に適當な山地があれば、その中に建設されていることを観察することができた。

このような平和の保持に対する烈々たる熱意の結集によつてこそ、列強にかこまれた十字路的位置にありながら、よく平和国家としての榮譽を守り通すことができたのである。そして守り得た平和は単に国土と國民を直接の戦禍から守りぬいただけではない。それは貴重な國家的資金として廣泛的に周囲の繁栄の基盤ともなつたのである。

採 点



松 井 勇

「ダイシキウサイテンダノム ーブ ン」、いうまでもなく、成績提出の催促である。ある大学のオ一文学部から電報でせき立てられて、どうやら採点の義務を果した。毎年のことながら、多人数のクラスは、ついのびのびになりがちで、それだけ報告をすませたあとは、一寸重荷をおろした気分になる。さて、というわけでもないが、かねがねこれも、うるさくとか催促されていたこの雑文を書きはじめた次第である。

昭和9年以來、すでに30年近く、答案を評価して序列をつける仕事をしてきたか、一向にその道のベテランにはなれそうもない。今日もある大学の友人から、一枚一分という話をきいて、内心舌をまいたことであつた。何よりもまず理解の程度がよくつかめて、その上で見やすい問題などは、実際には中々つくれないものである。おのづから多人数の場合には、らくにみられて、差のつけやすいようなものを出題することになる。理解の程度の方は、とかくなおざりになりがちである。それでも思ひのほか時間がかかつて、きめられた日までにみるのは胃がおれる。

以前、試験の代りにレポートにしたことがある。一人十枚前後の報告をよむのも、かなりめんどうであるが、それはとにかく、序列をつけ採点をする段になると、まことに困難な仕事であった。

要するに、いくつかの限られた書物からの抜書であるから、きわ立ってよいのと、でたらめなのは別として、どれを見ても同じようで、大いにとまどった次第である。A, B, C, Dにわけても、BとCの界など、そのときどきでかなり長動するのが実情である。たといゆつくり時日をかけても、かえって比較の標準がくるいがちで、むしろ、できるだけ短時間にしあげてしまわなければならない。見落しのないように、しかも可及的敏速に、何百枚かを読み通すのは、精神の集中能力をためられるようで、私にはまことに生れつきの苦手であった。

その上、必ずといってよいほど、後から苦情がでて、めんどうな思いをしたものである。どこかわるくて良にしたか、説明をしてもらいたい、などというのは、考えようによっては、まことに勉強熱心ともいえないこともない。答案を再度、三度熟読して、あれこれと足りない点をひろいあげて、一々手紙をだすことにした。もつとも、あらためて返事をもらったためしがない。それはとにかく、あるときには、自分の調べた結果を、名はいえないが、ある友産に写させたら、その人間は優で自分は良がついているのは、どうもがてんがいかないが、という、すこぶる女性的な手紙を男子学生から受取って、まことに気味のわるい思いをしたことであつた。以来、レポートは一切ごめんをこうむることにしている。

そしてここ数年は、評価の標準のくるわらないもの、すつきりと採点のできるもの、こういう方針で、小さい問題をたくさん出してみた。試験としてあまり理想的とは思われないが、こんなやり方でも、毎年のことながら、昼間と夜間の学生の間には、思いのほか明瞭な差異があらわれる。パートタイムの勉強の困難が、ここにもはつきりみられるようで、逆にいえば、学生を本業とできるのは、それだけでも感謝しなければならないであろう。